

2023年6月11日
AFC資料

「春の祭典」 — 20世紀で最も”お騒がせ”な曲！

ストラヴィンスキー初期の3大バレエ音楽「火の鳥」「ペトルーシュカ」「春の祭典」の最後を飾る名曲。パリのシャンゼリゼ劇場の開場を祝って作曲された。1913年5月29日にニジンスキーの演出でバレエリュス（ロシアバレエ団）により初演された。これが騒ぎを引き起こし、“暴動”とまで報じられるほど悪名高い事件となった。バレエとして上演されるのは勿論、管弦楽曲として世界中のオーケストラによって演奏されて今に至っている。この他ウォルト・ディズニーの映画「ファンタジア」（1940年米国で封切り、日本では1955年にロードショー）の中にも採り上げられた。私は、これによってこの曲の存在を知った。

曲の題名はフランス語で“Le sacre du Printemps”(春の聖事の意)というが、スラブの太陽神を祝う春の祭りで、最後に村の長老達の前で生贄に選ばれた乙女が踊り続けて死に至る—という悲劇的なもの。極めて前衛的な音楽（特にリズム）で、ストラヴィンスキーの”原始主義“と言われる時代の代表作だ。

曲は2部に分かれ、第1部（16分）は

1. 序奏
2. 春の兆し（乙女たちの踊り）
3. 誘惑
4. 春の輪舞
5. 敵の部族の遊戯
6. 長老の行進
7. 長老の大地への口づけ
8. 大地の踊り

第2部（18分）は

1. 序奏
2. 乙女たちの神秘的な踊り
3. 選ばれた生贄への賛美
4. 祖先の召還
5. 祖先の儀式
6. 生贄（選ばれた乙女）の踊り

1 部、 2 部は、それぞれ連続的に上演される。

作曲者のイゴール・ストラヴィンスキー (Igor Stravinsky,1882-1971) は、ロシアのサンクトペテルブルク近郊で生まれ、サンクトペテルブルクで育った。父はマリインスキー劇場付きのバス歌手で、息子の彼はリムスキー・コルサコフに学んだ。1910年にバレエリュスのために作曲した「火の鳥」パリのオペラ座で初演、大成功を収めた。初期3部作の成功で若手の革命児とまで言われ、有名になった。しかし1914年に始まった第一次世界大戦でフランスに居られず、スイスなどを転々、第二次大戦との間に「プルチネラ」を発表これが彼の新古典主義と呼ばれるが、“退廃音楽”と誹謗されるが、1939年にハーバード大学の依頼で、渡米、そのまま米国に居つくことになった。第二次大戦後は、セリエ (十二音音楽) にまで手を広げ、作風の変化が激しく“カメレオン”とまで呼ばれた。1959年には、日本を訪れ、ピアニスト (彼のもう一つの顔) としての演奏や日本のオーケストラとの共演などで話題を提供した。また当時は無名に近かった武満徹を世界中に紹介した。1962年にソ連を訪れており、1967年に活動停止、69年に再度渡米、71年に没した。

この CD の演奏は、ワレリー・ゲルギエフ (Valery Gergiev) 指揮のキーロフ歌劇場 (マリインスキー歌劇場と同じ) 管弦楽団。録音はバーデン・バーデンで1999年7月24-27日。PHILIPS UCCP—1035

ゲルギエフは1953年に生まれ、ミュンヘンフィルの首席指揮者を長く勤め、1988年にマリインスキー歌劇場の芸術監督に就任、世界的に活動しており、日本でも演奏した。最近では、プーチン大統領の支持者というのが大きく取り上げられ、西側の音楽界で問題になっている。

以上